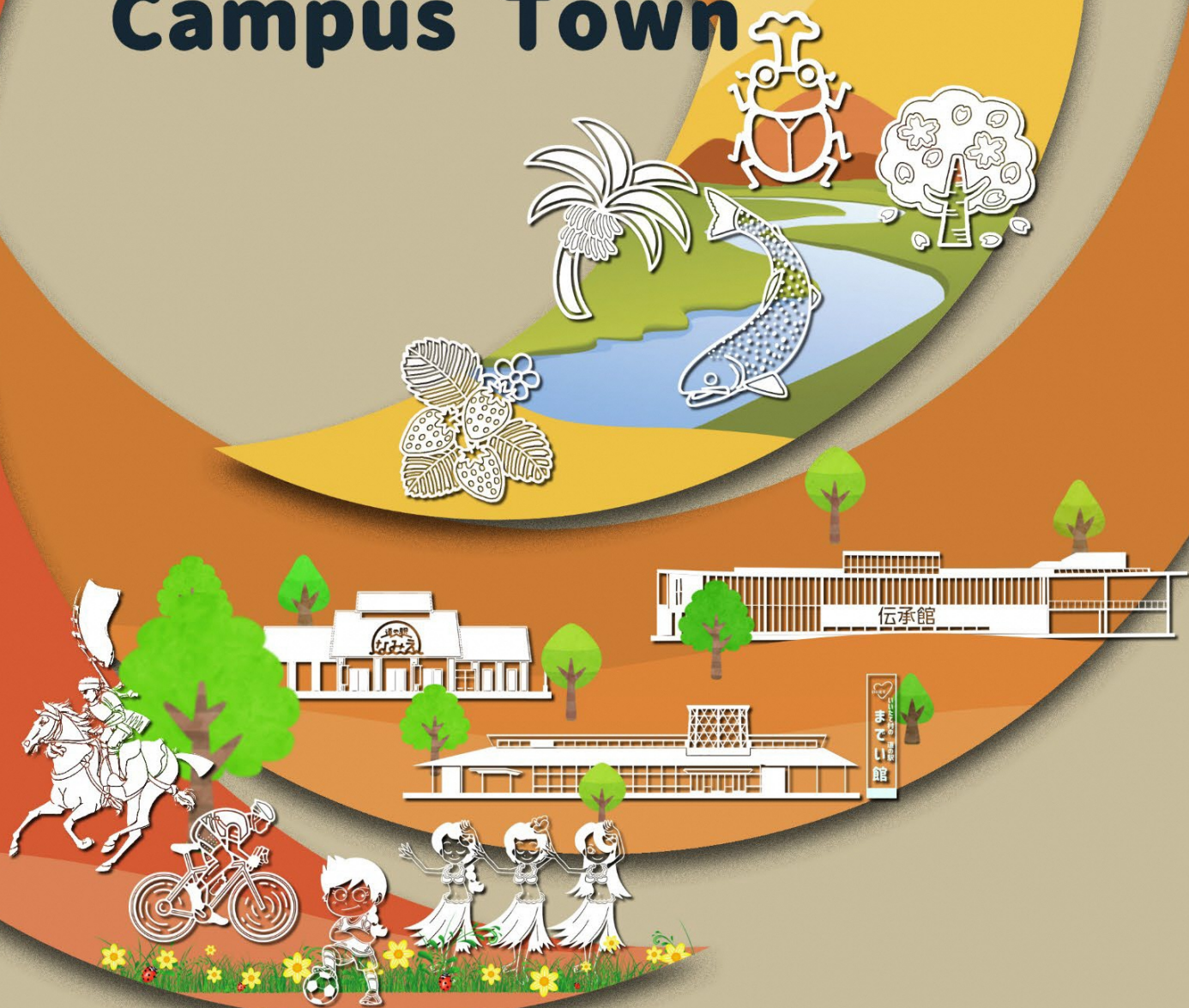


Namie Global Campus Town



(仮称) 浪江国際研究学園都市構想

中間報告

最終版では町長の挨拶文
を掲載いたします。

浪江町長 吉田 栄光

この構想の中では、福島国際研究教育機構を略称である「F-REI」と記載しています。

| | | |
|-------|------------------|----|
| <もくじ> | 1. 本構想の位置づけ | 2 |
| | 2. F-REIの概要 | 2 |
| | 3. 本構想のビジョン | 3 |
| | 4. 浪江町を取り巻く状況 | 4 |
| | 5. 目標 | 7 |
| | 6. 各目標における取組の方向性 | 8 |
| | 7. 未来の浪江町のイメージ | 18 |

1. 本構想の位置づけ

町の最上位計画である浪江町復興計画【第三次】やその関連計画を踏まえながら、F-REIの本町への立地に伴う状況変化に対応するため、本構想を策定します。なお、浪江町復興計画【第三次】の改定時に、施策などの整合を図ります。

計画期間：令和6年度～令和15年度（10年間）

対象範囲：浪江国際研究学園都市の範囲は浪江町全域とします。

2. F-REIの概要

- 福島国際研究教育機構（Fukushima Institute for Research, Education and Innovation 略称：「F-REI」）は、福島復興再生特別措置法に基づき、令和5年4月1日に設立された特殊法人です。
- F-REIは、「福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるものとともに、その活動を通じて、我が国の科学技術力の強化を牽引し、イノベーションの創出により産業構造を変革させることを通じて、我が国の産業競争力を世界最高の水準に引き上げ、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる『創造的復興の中核拠点』を目指すもの」（※1）です。

理事長のリーダーシップの下で、F-REIの持つ研究開発・産業化・人材育成・司令塔の4つの機能を発揮するための取組を一体的に推進します。

研究開発

産業化

人材育成

司令塔

研究分野 出典：F-REIパンフレット（2023.10版）



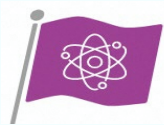
ロボット



農林水産業



エネルギー



放射線科学・創薬医療、
放射線の産業利用



原子力災害に関する
データや知見の集積・発信

- また、F-REIは、「研究開発の成果の立地地域等への還元・実装などを通じ、産業の集積、人材育成を図るとともに、帰還者と移住者が研究人材等と共存して生きがいを感じながら生活していける新たなライフスタイルの実現や地域アイデンティティの再構築にも寄与することを目指す」（※1）、「地域の復興・再生に貢献し、地元に着して親しまれる存在になるよう、（略）地域のまちづくりの課題に貢献できる研究開発等のテーマに取り組む」（※2）、「地域の未来を担う若者世代や、企業の専門人材等を主な対象とした人材育成の取組を進める」（※1）とされています。
- F-REIの設立に先立ち、令和4年9月に、復興庁に設置された復興推進会議において、F-REI本施設を浪江町川添地区に立地することが決定し、令和5年9月には、F-REI施設に係る都市計画決定の告示及び都市計画事業としての事業承認の告示がなされました。
- F-REI本施設は、当初の施設整備を国が行うこととしており、復興庁設置期間（令和6年3月時点では令和12年度末）内での順次供用開始を目指すこととしています。

※1 出典：福島国際研究教育機構基本構想（令和4年3月29日復興推進会議決定）

※2 出典：新産業創出等研究開発基本計画（令和4年8月26日内閣総理大臣決定）

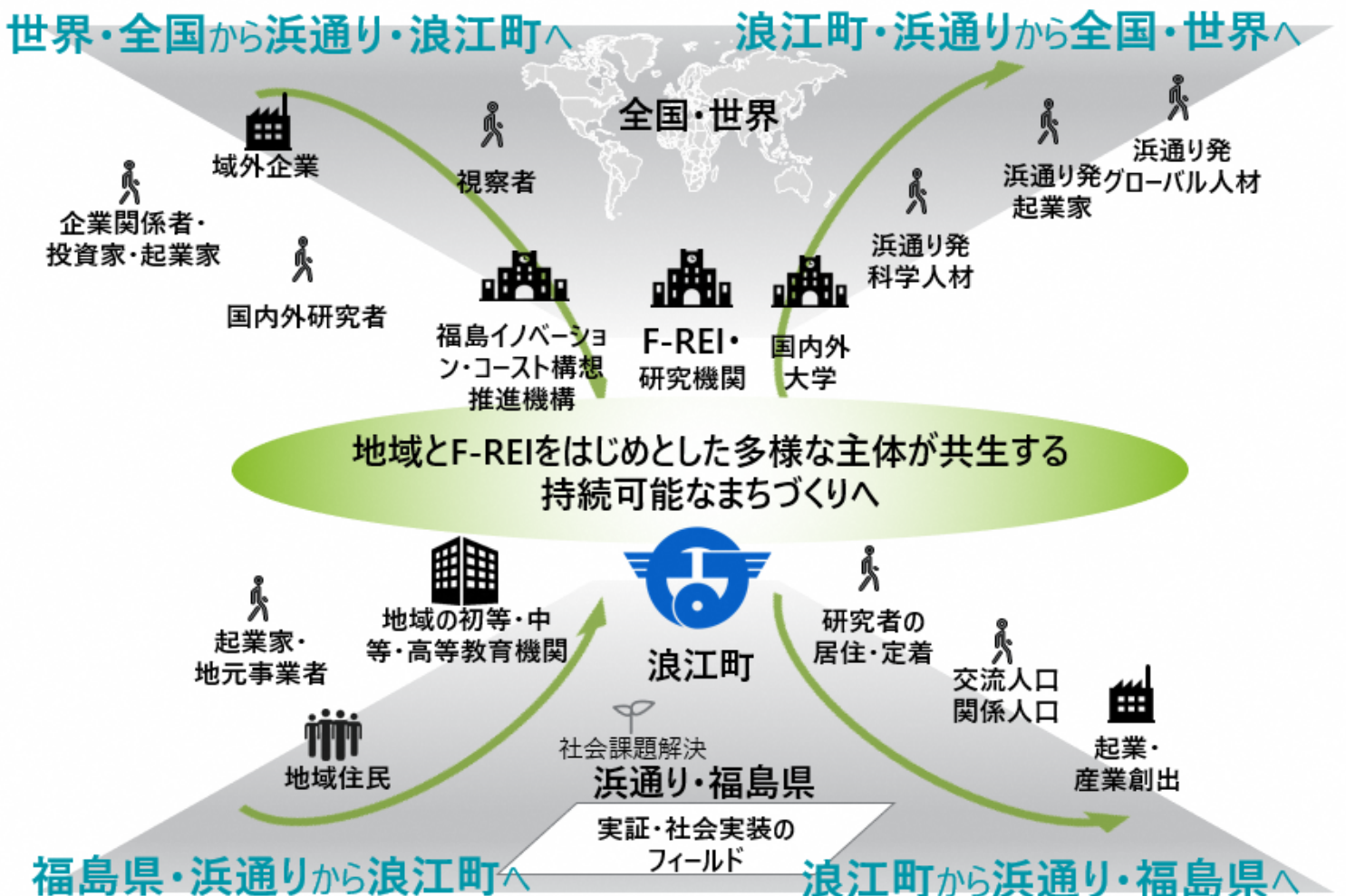
3. 本構想のビジョン

《本構想のビジョン》 地域とF-REIをはじめとした 多様な主体が共生する 持続可能なまちづくりの実現

F-REIをはじめとした多様な主体の研究成果が早期に発現すれば、浪江町の復興もより一層推進されるため、地域と多様な主体がともに支え合い、効率的、効果的に多様な主体が活動できる環境をつくることが重要です。

このため、浪江町は、F-REIの立地に対応した新たな都市像として「国際研究学園都市」を掲げ、当町と「浜通り・福島県」、「全国・世界」を繋ぎ、地域全体の産業創出、人材育成、人口増加に着実に結び付け、地域と多様な主体が共生する持続可能なまちづくりの実現を目指します。

〔 地域と多様な主体が共生する まちづくりのイメージ 〕



4. 浪江町を取り巻く状況

浪江町の現状

- 浪江町は復興の途上であり、令和5年11月現在の町内居住人口は約2,000人（東日本大震災前の約1割）にとどまっています。
- 平成29年3月に居住制限区域及び避難指示解除準備区域、令和5年3月に特定復興再生拠点区域の避難指示が解除されましたが、浪江町内には依然として広い範囲で帰還困難区域があります。
- 町の更なる復興・再生に向け、浪江町復興計画【第三次】に基づき、様々な取組が進んでいます。

主なトピックス

《生活環境》

- 生活に欠かせない教育、医療、福祉については、町内には、なみえ創成小学校及びなみえ創成中学校、なみえ診療所、ふれあい福祉センターなどがあります。

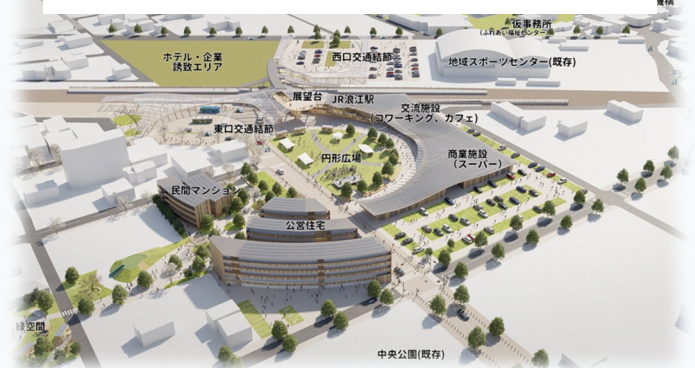
《産業》

- 農林水産業については、農業の再開、福島県産材の需要拡大を目指す福島高度集成材製造センター（FLAM）の操業、請戸漁港の復旧・漁の再開などの取組が進んでいます。
- 商工業については、再開や新規開業する飲食業、小売業などの店舗が徐々に増加しているほか、産業団地が整備され、様々な企業や実証施設などが立地しています。水素社会の実現と二酸化炭素排出量実質ゼロの達成を目指す「なみえ水素タウン構想」に基づき水素エネルギーの利活用の取組も進んでいます。

棚塩産業団地（FH2R・FLAM）



浪江駅前整備事業イメージ



《まちづくり》

- 浪江駅周辺においては、建築家隈研吾氏のデザインによる中心市街地の再生に向けた先導的まちづくりが進められています。

《帰還困難区域》

- 帰還困難区域のうち特定復興再生拠点区域外の区域において、住んでいた方々の帰還意向を踏まえ「特定帰還居住区域復興再生計画」を策定します。
- 2020年代をかけて帰還に必要な箇所の除染やインフラ復旧を進め、避難指示解除を目指します。

浪江町の魅力

《自然》

- ・ 海・山・川など自然が豊かです。
- ・ 請戸川リバーライン桜並木、高瀬川溪谷や津島紅葉、阿武隈の山々を背にした水田など、季節ごとに美しい景観があります。

《歴史・文化》

- ・ 千年の歴史を持つ標葉郷野馬追祭、豊漁を祈る安波祭、裸参り、十日市など伝統行事や各種のイベントなど豊富な地域資源があります。
- ・ 「津島の田植踊り」、「中島の剣舞」、「川添の神楽」など伝統芸能が保存・承継されています。
- ・ 江戸時代から続く大堀相馬焼は国の伝統的工芸品として指定されています。

《食》

- ・ 請戸漁港で水揚げされたヒラメやしらすなどの魚介は「常磐もの」として高い評価を得ています。
- ・ 「なみえ焼そば」は、B-1グランプリで1位に選ばれたこともあり、全国的な知名度を得ています。

《震災前のにぎわい》

- ・ 新町通りから浪江駅の間は、様々な店が立地していました。
- ・ 新町通りで開催されていた十日市は非常に多くの人出がありました。（現在は浪江町地域スポーツセンター敷地内で開催しており、約100店舗が出店しています。）
- ・ 浪江駅周辺は飲食店街としても栄えて、夜もにぎやかでした。
- ・ 戸神山・手倉山への登山客や高瀬川・請戸川への釣り人も多く訪れていました。

《新しい魅力：楽しいなみえ》

- ・ 「道の駅なみえ」は連日、多くの人を訪れます。食や買い物を楽しめるほか、福島応援ポケモンをモチーフにしたラッキー公園があり、楽しく過ごすことができます。
- ・ 「福島いこいの村なみえ」は、宿泊だけでなく大浴場やサウナへの日帰り入浴、レストランでの食事やバーベキューが楽しめます。
- ・ 町内で飲まれている水道水のペットボトル「NAMIE WATER～なみえの水～」は、モンドセレクション金賞を受賞しました。
- ・ 浪江町の公式イメージアップキャラクター「うけどん」は、ゆるキャラグランプリにおいて、過去の最高位は福島県で1位、全国で26位になりました。
- ・ アイドルグループ「浪江女子発組合」が結成され、今の浪江を伝えることをテーマに活動を行っています。

《新しい魅力：チャレンジするなみえ》

- ・ 従来、当町で生産されていなかった、「トルコギキョウ」、「浜の輝（玉ねぎ）」、「SAMURAIガーリック」など、新たな農産物の生産も行われています。
- ・ 浪江町には世界最大級の水素製造装置を備えた実証施設「福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）」が立地しており、水素エネルギー利活用の先進地域です。
- ・ 「なみえスマートモビリティ」により実証事業として交通サービスを提供中です。
- ・ このように様々な実証が浪江町で実施されており、当町は、新たな技術により、日本が直面する社会課題解決のモデルとなる先進的な取組にチャレンジしています。



《広域的な復興推進》

- F-REIの取組は浜通り地域・福島県全体の広域的な復興に寄与するものであることに鑑み、浜通り地域・福島県全体での広域的な連携により、個々の取組が相乗効果を発揮することが重要です。
- F-REIをはじめとした多様な主体の連携の効果を高めるよう、当町はF-REI立地町として広域的な連携に積極的に貢献することが重要です。
- 連携の効果を高めるためには、有機的で密接な交流を行うことが必要であり、研究機関や事業者等の集積の密度を浜通り地域全体で高める必要があります。
- そのため、浜通り地域全体で魅力ある立地環境を整備し、その魅力やインセンティブ等の情報発信等を通じて、研究機関等を引き続き誘致していくことが重要です。

広域的な取組全般

《コミュニティ形成》

- 町民や、F-REIをはじめとした多様な主体の活動に伴い居住・来訪する国内外のすべての人にとって、共に暮らしやすい環境整備が求められます。
- 研究者、事業者、起業家、地域人材の連携とともに、地域と多様な主体の連携が必要です。
- 地域のあらゆる主体が安心して活躍できる環境づくりを進めていくことが重要です。

まちづくり

《研究成果の産業化、社会実装》

- 研究者・関係者を浜通り地域に呼び込み、新産業創出や新事業創出を促進するため、ハード面では、時機を逸することがないように、実証フィールドや産業化などに必要な施設などを先行して整備し、ソフト面では、産業化・社会実装を当地域で行う仕組みづくりを行い、多様な主体による研究開発成果の産業化や社会実装化による波及効果を受け止めることが重要です。
- 帰還困難区域をはじめとする地域における、生活・自然環境などの再生や、農林水産業再開などの地域・社会課題解決に関して、多様な主体と連携し、先端的研究の成果を活用していくことが求められます。

産業づくり

《人材育成》

- F-REIをはじめとした多様な主体が地域に根付くためには、多様な主体を支える人材を地域において育成し、復興をリードする人材を継続的に輩出できるようにすることが重要です。

つながりづくり

《浪江らしさ、浪江の良さ》

- 東日本大震災と原発事故による避難生活を経て、町の伝統文化の承継が難しくなっています。
- 町民が研究人材などと共存して生きがいを感じながら生活していく新たなライフスタイルの実現と、新たな地域アイデンティティの確立が重要です。
- 課題を特定し克服する努力と同様に、浪江の良さ、長所を認識し、更に伸ばしていくことが重要です。

5. 目標

《本構想のビジョン》
地域とF-REIをはじめとした
多様な主体が共生する
持続可能な まちづくりの実現

【まちづくり】

目標 1
誰もが過ごしやすい まちづくり

【産業づくり】

目標 2
浜通り・福島県の広域連携による
産業振興・雇用創出

【つながりづくり】

目標 3
国際的な研究環境で活躍し、復興
をリードする人材の育成・確保

目標 4
伝統文化の承継と新たな浪江文化
の創出

F-REI機能との関係性

研究開発

産業化

人材育成

6. 各目標における取組の方向性

【まちづくり】

目標 1

誰もが過ごしやすい まちづくり

《方向性①》 地域と多様な主体の共生を促進する コミュニティ形成

①-1 産学官民が一体となったコミュニティ形成

- ◆ 地域と多様な主体の交流の場、町民と先端研究や技術のふれあいの場の創出
- ◆ 広域的な関係機関や多様な主体とのネットワークの構築

①-2 外国人受入れに向けた機運醸成

- ◆ 英会話教室の開催などによる外国語に触れる機会の創出
- ◆ 国際交流イベントなどの開催による多文化共生への町民の理解促進
- ◆ 事業者への外国人対応支援

①-3 外国人受入れに向けた環境整備

- ◆ 関係機関と連携した外国人向けの情報提供や相談対応などの外国人支援のワンストップサービスの提供
- ◆ 日本や浪江町の生活・文化情報の多言語発信
- ◆ 学校などにおける外国人児童・生徒の受入環境整備
- ◆ 外国人向けの日本語教室、浪江町や日本の歴史文化講座、地域との交流イベントなど、外国人と地域の交流の場の創出
- ◆ 外国人支援団体や外国人向けサービス事業者の誘致
- ◆ 外国人が家族で居住できる住環境の提供



《方向性②》 地域と多様な主体の共生を促進する 都市整備

②-1 都市整備の考え方

- ◆ 多言語表記も含めたユニバーサルデザインの推進
- ◆ 歩いて快適なゆとりある都市空間形成と施設配置
- ◆ 浪江駅周辺整備事業の先導的实施による居心地の良い都市形成
- ◆ 公民協働の仕組み構築などによる公民の適切な役割分担と、まちづくりへの民間誘導
- ◆ 公民協働のまちづくりによる賑わい創出
- ◆ 森林・水辺などの自然環境や農地が有する憩いの場などとしての機能の活用
- ◆ 地域の独自性を象徴する樹木などの可能な範囲での保存など、地域の特性を生かしたまちづくり
- ◆ 国内外とのネットワークを構築し、先進地が持つ知見を当町のまちづくりに活用

《方向性②》 地域と多様な主体の共生を促進する都市整備

②-2 具体的な都市機能

- ◆ 小中学校から高等教育機関まで、多様な教育機能の誘導
- ◆ 周辺市町村と連携した総合医療体制の構築と民間医療機能の誘導
- ◆ 外国人対応も視野に入れた高齢者福祉サービス機能の誘導
- ◆ 居住機能の誘導と、その近傍への店舗・事務所などの衣食住に関わる機能の誘導
- ◆ 研究成果の産業化や産学官民連携のための機能の充実
- ◆ 短期・長期のいずれにも対応できる宿泊のための環境整備
- ◆ 文化・スポーツ・利便施設などの多様な文化機能の充実
- ◆ リラクゼーションを提供する環境整備やサービス機能の誘導

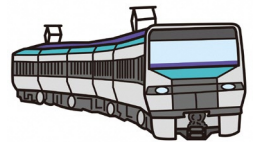
②-3 広域的アクセスの向上のための要望活動の実施《広域連携》

- ◆ 海外とのハブ空港である成田空港、羽田空港、浜通り地域の最寄り空港である福島空港、仙台空港とのアクセス向上
- ◆ 東京や仙台などの大都市から浜通り地域へのアクセス向上
- ◆ 浜通り地域全体の幹線道路ネットワークの充実

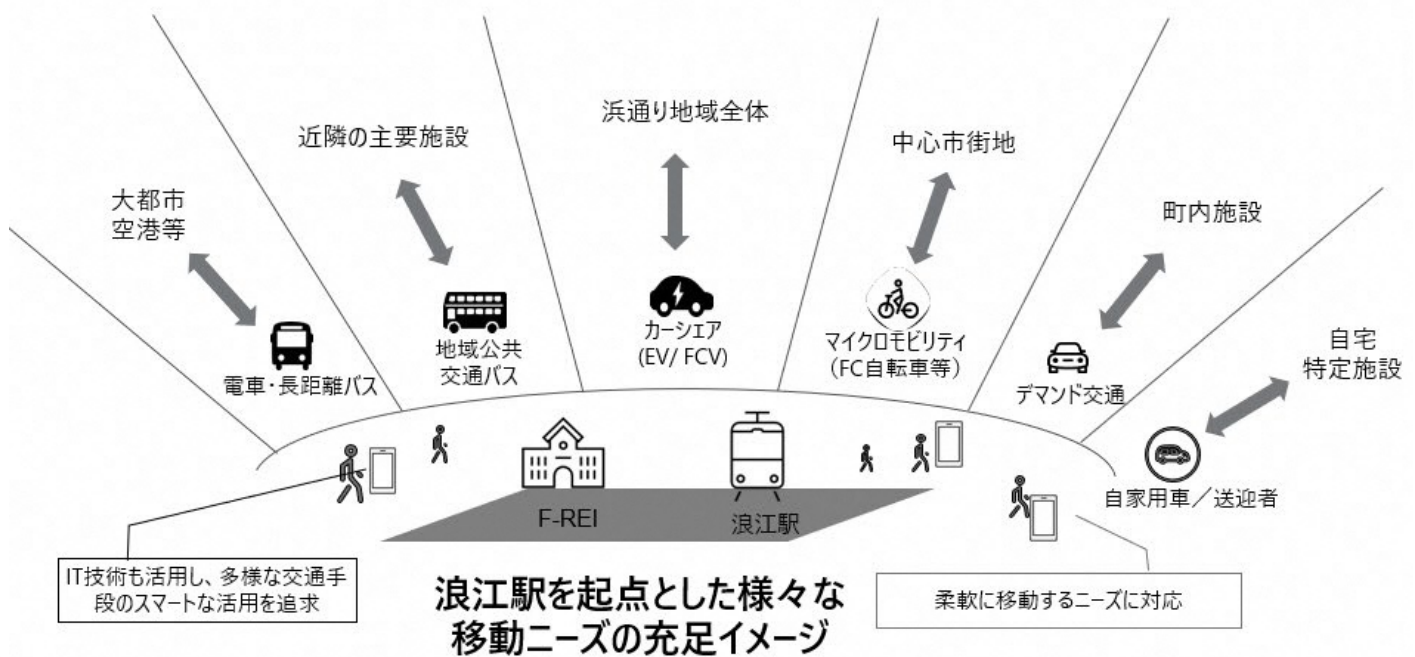


②-4 浜通り地域・浪江町内外アクセスの向上

- ◆ JR常磐線浪江駅と国道6号、県道広野小高線（浜街道）、常磐自動車道とのネットワーク強化
- ◆ F-REIへのアクセス向上のための周辺道路整備
- ◆ 町内交通の確保と様々なモビリティ導入の検討




〔 様々なモビリティの導入イメージ 〕



《方向性②》 地域と多様な主体の共生を促進する都市整備

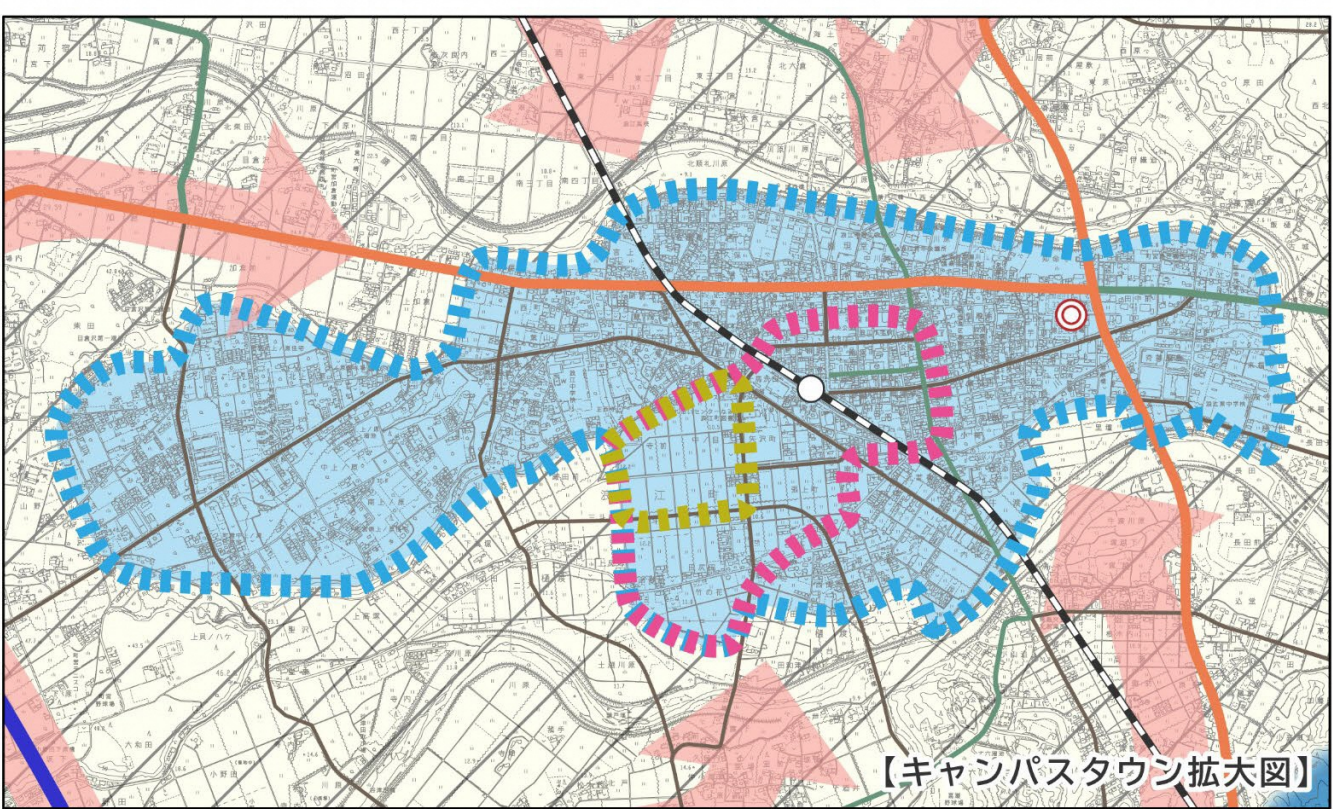
②-5 浪江国際研究学園都市の形成

| 区分 | 説明 |
|--------------|---|
| キャンパス タウン | <p>範囲：おおむね浪江町都市計画の用途地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な教育機関や人材育成施設の立地を誘導し、地域とF-REIをはじめとした多様な主体の共生の場となる学園都市を形成 前項に掲げる機能を配置し、誰にとっても便利で住みやすい生活環境を整備 主に民間による土地活用を誘導 |
| タウン センター | <p>範囲：中心市街地先導整備エリアとF-REI敷地を含むその周辺</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に都市的サービス（芸術、文化、スポーツ、娯楽など）や日常生活全般にかかわる利便・サービスを提供する施設、F-REIをはじめとした多様な主体に関連する活動や関係人口の活動にかかわる施設を配置し、生活サービスの拠点化を重点的に推進 産学官民連携のための施設や産業化に必要な施設などを適切に配置 浪江駅周辺とF-REI本施設とが相乗効果を生み出すよう、F-REI本施設が周辺地域に溶け込み、一体的となった街並みと、居心地よく歩きたくなるまちなかを形成し、まちを訪れることが目的となり、何度も訪れたいくなるような、魅力的なまちづくりを推進 浪江駅近接の立地条件を活かして、公共による先導的整備と秩序ある土地活用誘導を推進 浪江駅周辺においては、道路、宅地や広場などを一体的に利活用できる仕組みを構築し、民間事業者などによるイベントや様々な活動を誘導し、賑わいを創出  |
| 郊外拠点 | <p>範囲：現時点では、箇所数、位置、規模などは未定</p> <p><郊外型のライフスタイル拠点></p> <ul style="list-style-type: none"> 地方ならではの自然を感じる生活環境を活かした郊外型のライフスタイルの場 郊外居住ニーズに対応する仕組みを構築 <p><実証フィールド、産業団地></p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な主体の研究成果の産業化などに必要な実証フィールドや産業団地となりうる区域 実証フィールドや産業用地の不足により機会を逃すことがないよう、必要性が顕在化する前にあらかじめ設定 |

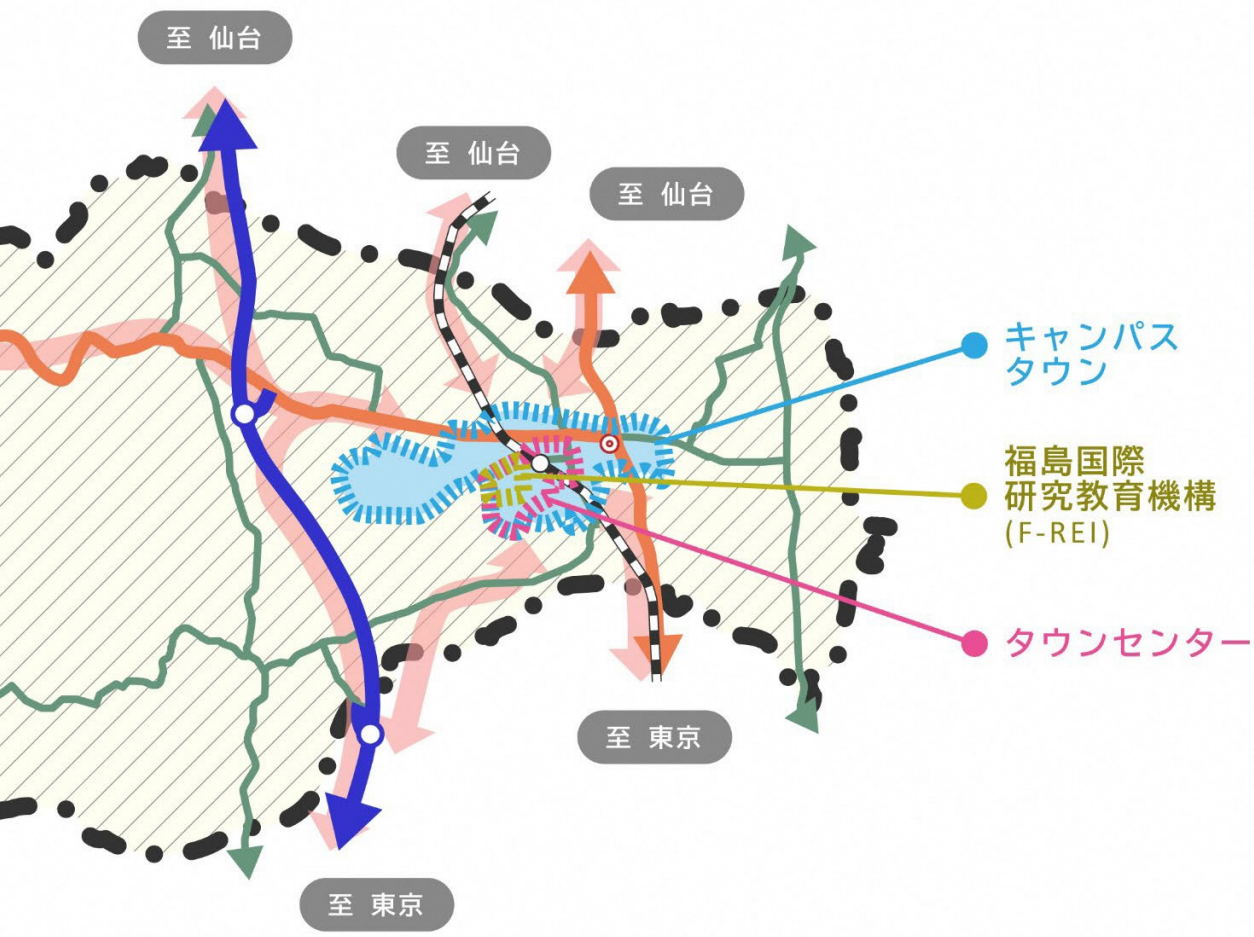


浪江国際研究学園都市形成イメージ図





【キャンパスタウン拡大図】



【産業づくり】

目標 2

浜通り・福島県の広域連携による産業振興・雇用創出

《方向性③》 実験・実証しやすい環境づくり

③-1 先端研究などの実証フィールドや、リビングラボの展開

- ◆ 当町全域における実証フィールド（※）や、リビングラボ（※）の展開と地域が一丸となった実証事業支援体制構築
- ◆ 実証フィールドなどの受入経験を通じた知見やノウハウの獲得による地域の受入能力の向上
- ◆ 実験・実証の可能性を拡大する規制緩和や特区化などの検討

③-2 研究成果の社会実装などによる社会課題の解決

- ◆ 多様な主体と連携したエネルギーの地産地消、水素利活用の推進
- ◆ 森林・河川などの再生に関する研究テーマの提案と研究成果の活用

※実証フィールドとは、新たな技術、製品、サービスを開発途上の段階で実際に使用、提供し、技術検証、評価、市場性確認などを行うための地域、場、施設などを指します。

※リビングラボとは、生活の場（リビング）を実験場（ラボ）として、暮らしを豊かにするための製品やサービスを生み出したり、技術革新を実践する活動を指します。



《方向性④》 創造的な産業空間づくり

④-1 F-REIをはじめとした多様な主体の研究成果の産業化

- ◆ 多様な主体の研究成果の産業化に必要な施設などの整備
- ◆ 多様な主体の研究成果の技術移転、地域還元に向けた地域の事業者支援
- ◆ 知的財産権関係手続きの支援体制の構築

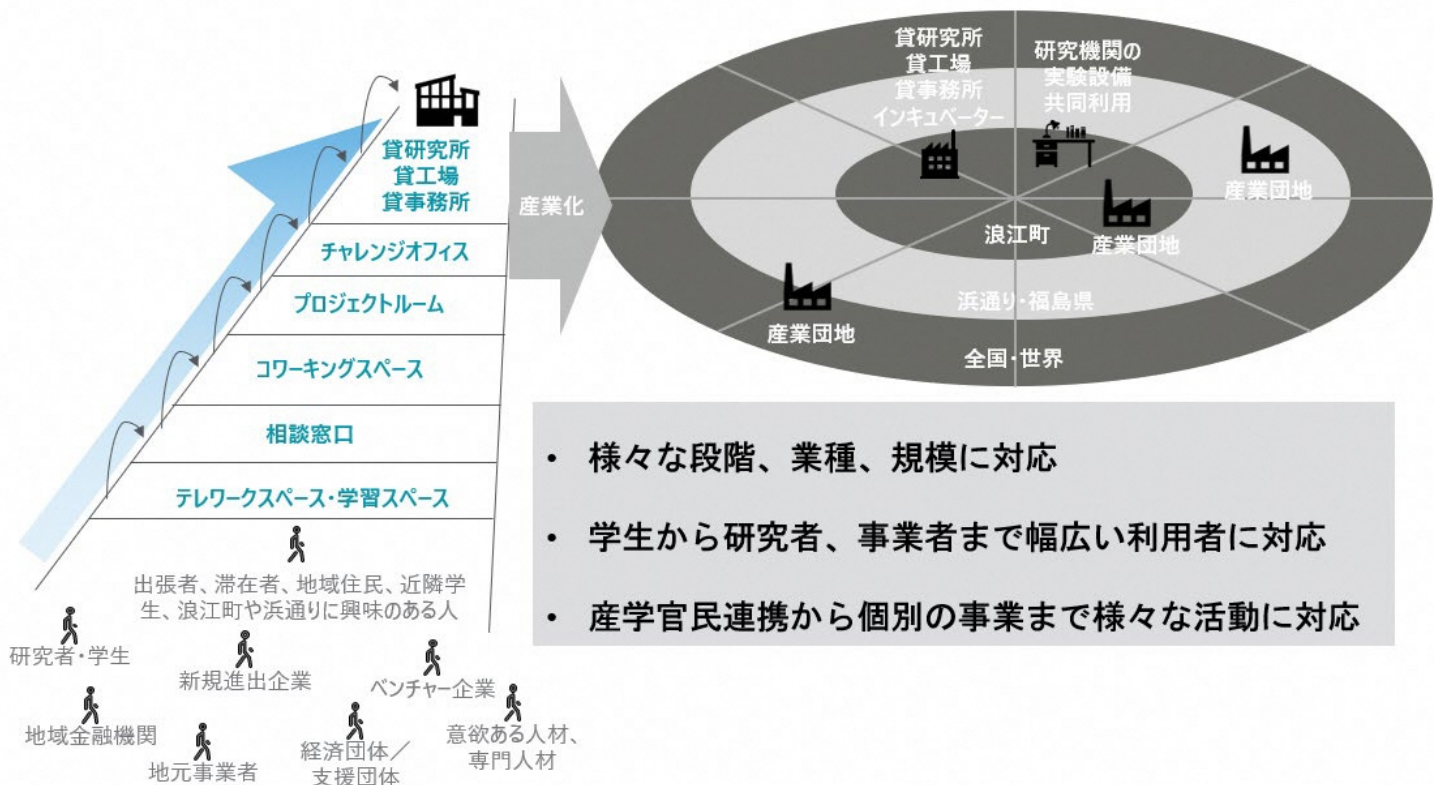
④-2 研究開発や産業化を担う多様な主体の集積促進に向けた地域の魅力向上

- ◆ 企業立地の優遇措置などの継続に向けた要望活動の実施
- ◆ 広域的視点での事業者誘致の検討
- ◆ 様々な最先端技術の試験研究施設などの誘致
- ◆ 高度試験研究機器や試験測定機器の共同利用への支援に向けた関係機関と連携した要望活動
- ◆ 道路網、物流網や通信ネットワークなどの広域的基盤整備について、関係機関と連携した整備の要望活動の実施

④-3 多様な主体の誘致に向けた情報発信

- ◆ 浜通り地域全体の総合力による魅力ある研究環境や浪江町の国際的な研究環境などに関する情報発信
- ◆ SNSなどの多様な広報媒体を通じ、当地域における研究成果などの情報発信
- ◆ 国際的な会議やシンポジウムを関係機関と連携して開催

〔 多様な主体の研究成果の産業化に必要な施設などの整備イメージ 〕



《方向性⑤》 浜通り・福島県全体での価値向上の好循環・連鎖の形成

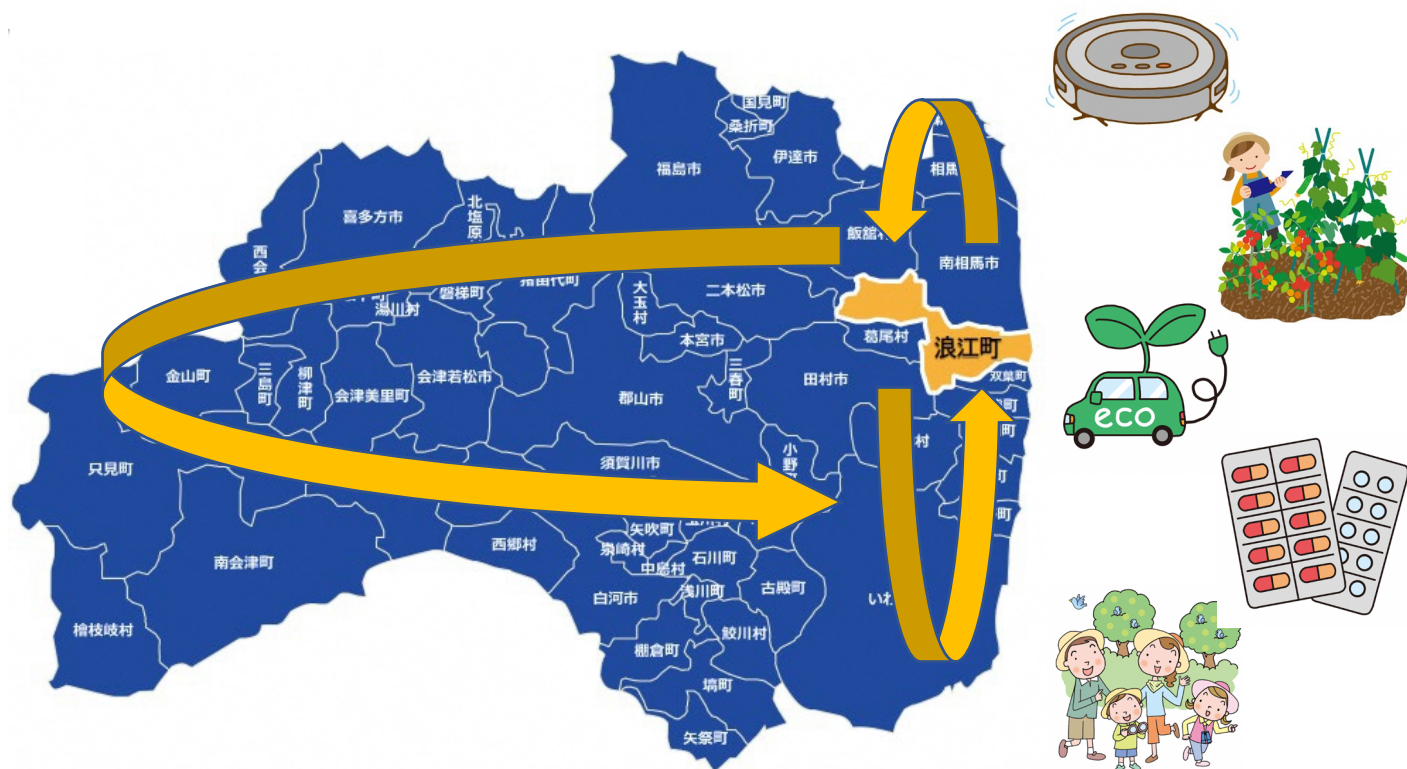
⑤-1 産学官民連携の推進

- ◆ F-REIを核とした広域的なネットワークの形成支援
- ◆ 多様な主体の研究成果の技術移転、地域還元に向けた地域の事業者支援【再掲】
- ◆ 知的財産権関係手続きの支援体制の構築【再掲】

⑤-2 共創の仕組みづくり

- ◆ 多様な事業者などが対等な関係性で共創できるコミュニティ形成
- ◆ 共創コミュニティが自律分散的に活動できるよう、関係機関と連携した支援体制構築
- ◆ 地域関係者が実証事業などに関わる仕組みの構築による実証事業などの円滑化、研究成果・技術などの定着化
- ◆ 地域の関係者が参画するエリアマネジメント（※）組織と共創コミュニティの連携によるオープンラボの取組などの共創活動の創出

※エリアマネジメントとは、特定のエリアを対象として、民間が主体となって、まちづくりや地域経営を積極的に行う取組を指します。



【つながりづくり】

目標 3

国際的な研究環境で活躍し、復興をリードする人材の育成・確保

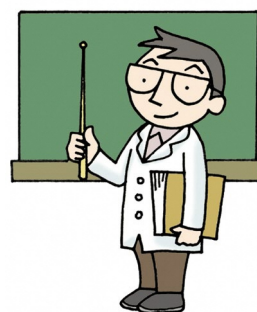
《方向性⑥》 人材や担い手の育成・確保

⑥-1 復興をリードする人材や担い手の育成・確保

- ◆ 多様な主体の研究者や起業家をモデルとした育成プログラムなどの構築
- ◆ 若者世代と先端技術のふれあいの場の創出
- ◆ 様々な共創活動の実践を通じた多様な運営主体の育成
- ◆ 研究成果の社会実装、産業化に向けての法制度などの社会科学系分野の研究人材育成の取組の検討

⑥-2 ここでしかできない教育の創出

- ◆ 研究人材・企業人材などが先端的な研究などの産業化に向けた技術スキルを共に学ぶ場の創出
- ◆ 復興に関する知見や、震災遺構などを活用した被災地でしかできない教育・学習の実施



《方向性⑦》 国際的な学術・教育空間づくり

⑦-1 研究機関や事業者等の集積に向けた環境整備

- ◆ F-REIを核として様々な研究機関等が集積するよう、浜通り地域全体で魅力ある立地環境を整備
- ◆ 浜通り地域全体の関係機関と連携した情報発信と研究機関等誘致活動

⑦-2 教育環境整備

- ◆ 小中学校から高等教育機関まで、多様な教育機能の誘導による充実【再掲】
- ◆ 県立高等学校の再開要望や国際的な高等教育機関の誘致
- ◆ 教育機関を含む多様な主体が継続的に意見交換を行える仕組みの構築



【つながりづくり】

目標 4

伝統文化の承継と新たな浪江文化の創出

《方向性⑧》 新たな浪江文化（なみえスタイル）の創出

⑧-1 地域の歴史・文化・伝統の承継

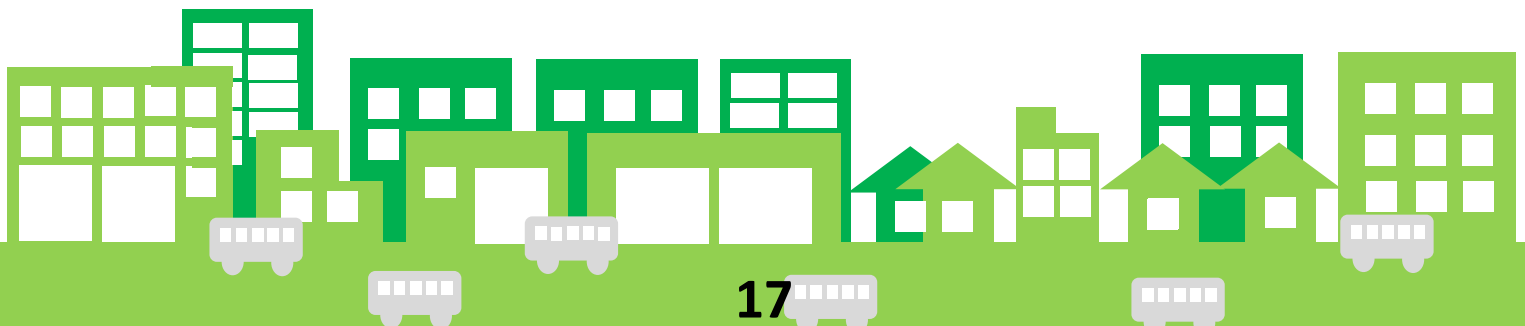
- ◆ 浪江町の歴史・文化・伝統の資料保存や承継するための仕組みづくり
- ◆ 多様な主体の関係者などが歴史文化や伝統芸能を体験する機会の提供

⑧-2 地域の魅力の発信・訴求

- ◆ 自然や食などの浪江の良さ、長所を認識し更に伸ばしていく取組の推進
- ◆ 「原子力災害」によるマイナス面を、ここにしかないプラスの資源と捉えて外部に訴求

⑧-3 新たな浪江文化の創出

- ◆ F-REIをはじめとした多様な主体との共生による変化から、常に新しいことに挑戦し進化する文化と町民性を醸成し「なみえスタイル」として町内外に発信



7. 未来の浪江町のイメージ

浪江町はこれから どのように変わるでしょうか？

まち・暮らし

新しく浪江町に住む方々や外国から移り住む方々と共に生活する町になります。町内では、多くの若い人たちがこの地域をどうするかを活発に話し合い、様々な事にチャレンジしています。

また、研究成果を生活に取り入れて暮らしやすさが向上することや、研究者や学生など多様な方々と住民間の交流も盛んになり、**一人一人が生き生きと生活**しています。

更に、市街地を中心に、居住・滞在する方々などの増加により商業施設などが立地し、**毎日が賑わうまち**になっています。



産業・仕事

町の中で実証などが当たり前に行われ、**チャレンジできるまち**になり、様々な研究者や大学、企業などが町の中で活動しています。

これらの研究成果から多くの起業・産業化がなされ、町内企業と交流・連携し、この相乗効果で、さらに**新しいビジネスが生まれ活気があるまち**になっています。

新しい業態へのチャレンジ、既存業態の深化と発展などにより、多くの雇用が生まれ、**都会に行かなくても生活していけるまち**になります。

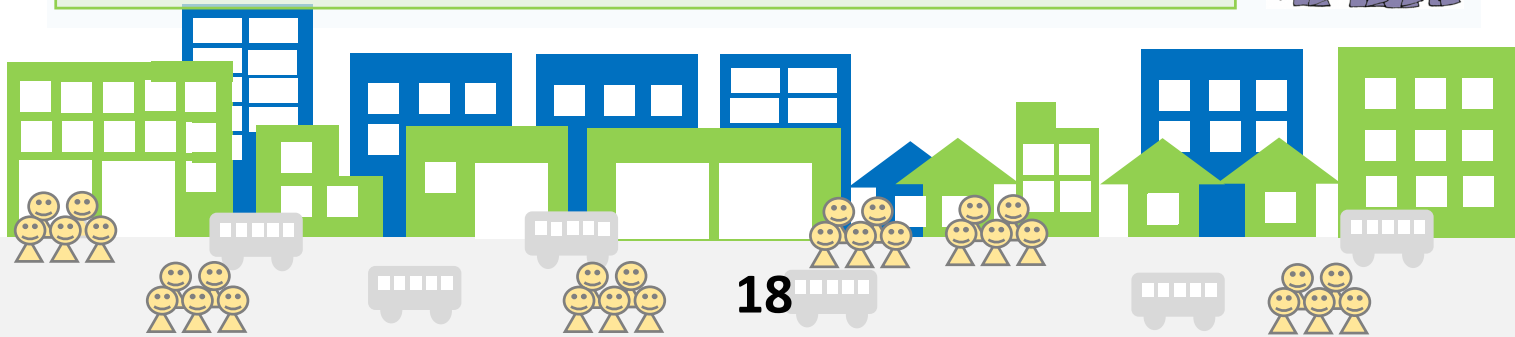


つながり

世界的な研究者や先端的な研究などと住民が触れる機会が生まれ、子供たちへの教育施設も充実し、**浪江町から世界に羽ばたく人材**が生まれています。

様々、浪江町の環境が変わる中で、なくしてはいけない**浪江町の歴史と文化を**、新しく浪江町に住む方々なども担い手となり承継しています。

また、新たな文化として、常に新しいことに挑戦することが当たり前になり、**新しい浪江町の誇り**が生まれています。





2023.11.24時点